

第 4 章

2011 年のシンガポール ——不確実性の中での安全保障強化

ラム・ペン・ア

2011 年はシンガポールにとっても世界にとっても、激動の時期だった。各国の国防相は、都市国家シンガポールの地政学的および経済的な不確定要素として下記を挙げている。

- ユーロ圏で進行する危機
- ジャスミン革命および中東地域における同革命の連鎖反応
- 着々と進行する西から東への経済力のシフト¹
- 東アジアにおける軍の近代化²

¹ テオ・チーヒン副首相兼国防相が国会で「アジア太平洋地域で、中国とインドが急速に成長し続けている。他の地域とは対照的な状況だ。ヨーロッパは数々のユーロ圏の国の問題にとらわれている。米国は多額の財政赤字に苦しんでいる。これは、経済の力学と重心が東にシフトしていることを意味している。国防費がこのシフトを反映している。西側では国防費が減少し、アジアで増加している」と述べた。“Speech by Deputy Prime Minister and Minister for Defense Teo Chee Hean at the Committee of Supply Debate 2011,” *MINDEF News*, 2 March 2011 を参照。

² ウン・エンヘン国防相は、シンガポール軍 (SAF) の増強は進んでいるものの、今後 20 年間に影響力を持つ地域が新たに生まれると考えられるため、シンガポールは引き続き脆弱だと発言した。シンガポール軍が発行する「パイオニア (Pioneer)」誌はウン国防相のスピーチを要約し、「その理由は、アジアの新興国が増大した自国の富と資産を守るため、軍隊の近代化に踏み切っていることにある」と述べている (Ng Eng Hen, “An SAF that adapts to change,” *Pioneer*, August 2011, p. 12)。

大統領の国会演説に対する国防省の追記の中で、ウン国防相はシンガポール軍が「能力の近代化と刷新を継続し、より迅速に察知し、軍隊を効率的に動員し、標的を的確に攻撃する能力を備えた統合的でネットワークを中心とした軍隊を目指す」と述べている (“Building a Styron, integrated, people-centric SAF,” *Channel News Asia*, 15 October 2011)。

- 台頭する中国に対する勢力の均衡を図るため、再び東アジアに目を向ける超大国アメリカ³

本論文ではまず、2011年のシンガポールの安全保障展望と脅威評価を検討する。次に、シンガポールの隣国マレーシアとの関係を考察する。続いて上に挙げた想定される問題に対する外交的及び軍事的な対応を検討する。それから安全保障に関するシンガポールの二国間・多国間協力の取り組みを分析する。最後に、ポスト・リー・クアンユー時代におけるシンガポールの今後の安全保障の展望と姿勢を考察する。

1 安全保障の展望——現実主義者の「厳正な真実」パラダイム

2011年前半に、近代シンガポールの創始者であるリー・クアンユー顧問相は、都市国家シンガポールが今後も脆弱であり、それゆえ警戒を怠ってはならないと述べた⁴。彼は著書『厳正な真実(Hard Truths)』の中で次のように断言している。「我々もはや脆弱ではないというのだろうか。脆弱でないとすれば、なぜ毎年、GDPの5～6%の予算を国防に費やしているのか。我々はおかしいのか。我々の政府は周知の通り、儉約家の政府である」⁵。リーは続いて、シンガポールが水資源をマレーシアから

³ シンガポールの2011年の戦略展望が、大統領演説への国防省の追記に述べられている。「グローバルな戦略のシフトが地域環境にもたらす不確定要素を思えば、安定の必要性は今、特に高まっている。2008年の世界金融危機の余波は現在も進行しており、米国やヨーロッパは相当な経済困難に直面している。中東では劇的な変化があったが、この『アラブの春』がどのような結果をもたらすかは未だに明らかになっていない。オサマ・ビン・ラディンが死亡した今も、テロとの戦いは終わっていない。我々の地域では、朝鮮半島と南シナ海に緊張状態が突発的に表面化する状況が続いている。米中関係の相互作用が今後もASEANと我々の地域に影響を与えるだろう」(“MINDEF’s Addendum to the President’s Address,” *MINDEF News*, 18 October 2011)。

⁴ ウン・エンヘン国防相もシンガポールの脆弱性に何度も言及している。メディアの報道によると、「シンガポール軍は近年急速に成長しているものの、それでもシンガポールが依然として脆弱であることをウン博士は、認めている。シンガポールの人口規模が小さく、土地面積が狭い状況は今後も変わることがない。軍事的に言えば、シンガポールには戦略的な深さがない」と彼は述べている(“NS (national service) men engagement must evolve,” *Channel News Asia*, 30 June 2011)。

⁵ Lee Kuan Yew, *Hard Truths to Keep Singapore Going* (Singapore: Singapore Press Holdings, 2011), p. 26.

の輸入に依存していることにも触れ「我が国は水資源の独立のために、36億5,000万ドルをかけて地中深くに下水道を掘り、その下水を再生水として利用する取り組みを行っている」と語っている⁶。

近隣の国々からの潜在的な脅威を回避するためのシンガポールのグランドストラテジー（大戦略）について、リーは次のように述べている。「我々が脆弱ではないと言うのか。彼らは我々を包囲攻撃できる。そうなれば、我々は命を落とすだろう。シーレーンは寸断され、企業活動は停止する。解決策は何か。（国連）安全保障理事会と我々自身の防衛力、それに米国との安全保障枠組み協定である」⁷。リーは続いて、マレーシアとインドネシアが、「シンガポールに制約を加えるために」シンガポールへの土砂の販売を中止した、とほめかした⁸。それからマレーシアのマハティール元首相のシンガポールに関する次の発言を引用している。「マハティールは、『彼ら（シンガポール）は現在の規模でもやっかいなのに、さらなる成長を許せば、もっとやっかいになるだろう』と発言している。我々は友好的な隣国どうだったのか。我々は大人になったのか…。なぜ今が平和なのか。それは他の国々が我が国を攻撃したら、その代償を支払うことになるからだ。どこかの国が我が国を攻撃すれば、我が国は反撃し、相手が被る損害は我々に与えたものを上回るものになるだろう」⁹。

リーの「厳正な真実」のメンタリティとシンガポールが生き残るための処方箋が、シンガポールがかつてマレーシアの一部であった時代に彼が味わった苦しい政治経験から出ていることは明らかである。1965年にマレーシアから独立後、リーが率いるシンガポールは北に国境を接する自分たちより大きな、マレー民族が多数派であるため、

⁶ Ibid.

⁷ Ibid., p. 27.

⁸ Ibid. リーは次のように発言している。「まず、もし我が国に防衛力がなければ、マレーシアとインドネシアに脅かされる可能性がある。彼らは我々を好きなように扱っだろう。目に見える形で侵略することはない。安全保障理事会が横やりを入れて、出ていけと言ってくるだろうし、我が国が国際社会で持っているさまざまな他国とのつながりを知っているからだ。だが、彼らは我が国を苦しめるだろう。だが、自分たちがシンガポールを苦しめたら報復され、自分たちが苦しめられると知っていれば話は違う」(Ibid., p. 322)。リーは次のようにも書いている。「強い経済がなければ、強い防衛力はあり得ない。強い防衛力がなければ、シンガポールは存在できない。シンガポールは隣国に脅かされ、威圧され、隣国の衛星国になるだろう」(Ibid., p. 11)

⁹ Ibid.

理想とする統治法が異なる隣国と緊張を強いられる関係にあった。おそらく包囲攻撃に関するリーのメンタリティ、シンガポールのASEAN及びより広範な東アジア地域内の共同体及び制度を念頭に置いた楽天的な意識ではなく、抑止を重視した国際関係及び安全保障に関する想定に影響を与えていると思われる¹⁰。シンガポールのリー・シェンロン首相の父であるリー・クアンユー氏は2012年現在88歳であり、現在も国会議員として影響力を持っている。シンガポールで長年与党の座に就いている人民行動党の次世代の最高指導者たちが、リー・クアンユーが政界を退いた後、安全保障に対して「より柔和な」メンタリティとアプローチで対応するようになるかどうかは不明である。

リー・クアンユーの妥協を許さない「厳正な真実」のメンタリティが与党の隅々まで浸透していることを思えば、シンガポール政府が2011年度予算で、前年比5.4%増の121億ドルを国防予算に充てたことは驚くにあたらない¹¹。この多額の国防予算のおかげで、シンガポール軍は海外での活動を拡大し、国内軍備を増強することができる。ウン・エンヘン国防相は、「防衛に対する賢明かつ着実な投資を通じて、シンガポール軍の国防力を強化できるだけでなく、平時にテロ、海賊行為、自然災害のような国境を越えた脅威に対応できるようになる」¹²と述べている。

2011年に新たに追加された兵器システムには、空軍が1994年に購入した人員捜索用無人航空機(UAV)に代わるヘロン1無人航空機(UAV)、30年前のラピエ対空防衛システムに代わるスパイダーSR(地对空パイソン5及びダービー短距離)対空防衛システムなどがあった¹³。熱帯地域特有の海洋環境に合わせて改造されたシンガ

¹⁰ しかしながら、リーは現実的な態度で、シンガポールとマレーシア間には協力の余地があると述べている。「私は両国に社会的及び政治的構造に根本的な違いがあるから、協力できないと主張しているわけではない。二国間及びASEANにおいても協力が可能であるし、実際に協力がなされている。ペドラブランカ島の領有権問題については、両国が司法裁判所に託すことに合意し、戦力による争いになることを回避した。私はマハティール博士との間でいくつかの条約を締結し、それらは現在も効力を持っている。なぜなのか。それは、そうすることがマレーシアの利益にも適うからである。それが理性的で現実的な国家がとる行動だからである。我々は共に働くために愛し合う必要はない。利益の一致は情動を解消することはないが、緩和することはできる」(Ibid., pp. 29-30)。

¹¹ *Straits Times*, 18 February 2011.

¹² "Raising a potent fighting force," *Sunday Times*, 16 October 2011.

¹³ "SAF to beef up arsenal, expand peace operations," *Straits Times*, 3 March 2011.

ポール初のスウェーデン製アーチャー級潜水艦が2011年に試験運用を開始している。また同じ年に地上では、初の高機動ロケット砲システム(HIMARS)と初の車両化部隊が「戦闘可能な状態」になったという発表があった¹⁴。

伝統的な安全保障の問題以外に、シンガポールは海賊行為、テロ、サイバー攻撃のような非伝統的な安全保障の問題への対応にも取り組んでいる。ソマリア沿岸における海賊行為の根絶に向けた国際的取り組みの一環として、シンガポール海軍がアデン湾に展開した。2009年以来、海軍はアデン湾に3回部隊を派遣している¹⁵。また、国際的な対テロ活動の一環として、アフガニスタンにも派兵を行っている。2011年に、シンガポール空軍はカブールの南西に位置するオルズガンに13名編成のチームを派遣し、米国が管轄する野戦病院で負傷者の治療にあたった。また、シンガポール軍の兵士16名がカブールに駐屯し、アフガン兵士に大砲操縦訓練を行うかたわら、オルズガンでは6名編成の画像解析チームが画像分析や諜報活動支援を行う作戦に参加した¹⁶。国内では、テロ寄りの過激派宗教組織に引き続き警戒し、強硬姿勢による対応を続けている¹⁷。

2011年9月にテオ・チャーヒン副首相が、「政府機関が運営するウェブサイトや、MRT 鉄道運行用送電網などの重要な情報システムに対して想定される脅威を確実に早期発見するために」サイバーセキュリティのための国の対策拠点を設立すると発表

¹⁴ “A year of gearing up,” *Straits Times*, 3 December 2011. シンガポール軍初の大規模な車両化部隊に、国内で設計・建造されたテリックス歩兵戦闘車(ICV)が配備された。ある高官は、「テリックスには、他の地上および空中プラットフォームに連結する戦場管理システムが搭載されているため、シンガポール軍の兵士間の通信力が高まり、状況監視能力が向上し、他の資産の破壊能力を利用してシンガポール軍の任務を支援している」と述べている(“First motorized infantry battalion operational,” *Pioneer*, July 2011, p. 4)。

¹⁵ 国防省によると、「今年の8月に配備された226強力機動部隊は、シンガポール軍がアデン湾に派遣した3番目の部隊である。それ以前の2つの部隊は2009年4月と2010年6月に派遣された。戦車揚陸艦1隻、スーパーピューマ・ヘリコプター2機と、陸軍、海軍、空軍の兵士から構成される同機動部隊は、第151合同任務部隊(CTD 151)の下、活動している。SAFは多国籍部隊であるCTD 151の指揮も2回執っており、アデン湾における国際的対海賊活動支援に、フォッカー 50型海上巡視航空機も派遣した」(*MINDEF News*, 8 November 2011)。

¹⁶ *Ibid.*

¹⁷ テオ・チャーヒン副総理大臣によると、ジェマ・イスラミア(JI)や周辺地域を拠点とするその分派などのテロリスト集団が、シンガポールの安全保障にとって最大の懸案事項である状況が続いている(“Regional terror groups are top security threat,” *Straits Times*, 10 September 2011)。

した¹⁸。メディアの報道によると、同拠点は、政府の IT システムの監視・保護のために設立された国家レベル機関であるシンガポール情報通信安全保障開発庁 (SISTA) 内に設置される (SISTA はシンガポール内務省国内保安局の管轄下に入る)¹⁹。

2 シンガポールとマレーシアとの関係 — 鉄道用地と水資源

リー・クアンユーが説く国防に関する「厳正な真実」とマレーシアに対する「鋼のように強硬な」姿勢にも関わらず、両国の関係は 2011 年に著しく改善している²⁰。マレーシアがシンガポール国内に保有していた KTM 鉄道用地とその他の用地をシンガポール政府に売却し、共同開発を行うことに同意したことで、長きにわたる争いが大きく進展した。両国はマレーシア・ジョホール州の北部に位置するイスカンダル地域の経済開発も共同で行うことに合意した。シンガポールの 3 倍の規模を持つイスカンダル地域の開発が成功すれば、同地域は香港にとつての深センの相補的な役割と同様になるだろう²¹。

シンガポールはまた、協定 (1961 年に締結された水供給協定) により、2011 年にマレーシア・ジョホール州に保有する水処理場 4 カ所を譲渡する義務を負っていた。この手順は円滑に進み、シンガポールにおける水の供給に混乱は一切生じなかった。

¹⁸ “New centre to boost cyber security at national level,” *Straits Times*, 22 September 2011.

¹⁹ *Ibid.*

²⁰ シンガポールとマレーシア間の二国間関係が著しく改善した理由は少なくとも 2 つある。第一に、シンガポールがマレーシアと 1963 年に合併し 1965 年に独立して以来、長きにわたる敵対関係を続けていたリー・クアンユーとマハティール・モハメドが統治者の座から退いたこと。第二に、マレーシアの与党連合・国民戦線が野党や市民社会組織に対し、選挙で非常に苦しい立場に立たされていることがある。おそらく、シンガポールの KTM 鉄道用地をめぐるやっかいな争いを収め、相当額の補償その他の金銭を受け取ったことにより、マレーシアのナジブ首相は 2012 年に行われる可能性の高い総選挙を戦い、選挙資金を得ることに集中できるであろう。

²¹ メディアの報道によると、「シンガポールの政府系ファンドであるテマセク・ホールディングスとマレーシアの政府系ファンドのカザナは、イスカンダル地域の一部で共同開発事業の可能性を模索している。2018 年までに、シンガポールのウッドランドと (マレーシアの) ジョホールを結ぶ高速鉄道が建設される見込みである」 (“Singapore, Malaysia can leverage on Iskandar momentum,” *Straits Times*, 15 September 2011)。

シンガポールの人口は2000年の400万から2011年には約520万に増加しているが、政府は新たな給水源の開発、再生水及び淡水化施設の建設などを精力的に進めてきた。マレーシアとの水供給協定がもう一つ、2060年に満了を迎えるが、シンガポールはその時期までには水の自給自足体制を確立する方針である²²。シンガポールとマレーシアが水供給の問題を平和的に解決したことは、二国間関係にとって大きなプラスである。実際のところ、想定された最も可能性の高いシナリオは、マレーシアが一方的にシンガポールに水を供給することを定めた（国連が課した）国際協定の義務に違反し、シンガポールが戦闘状態に入るというものであった。マレーシアから輸入している水が急に停止されたら、シンガポールの存続は確実に危うくなるだろう。しかしながら、シンガポールがマレーシアに対する水資源の依存度を減らしていけば、水供給の問題が大義名分となって二国間に戦争が起きる可能性も減少するはずである。

3 戦略地政学上の不確定要素——シンガポールの戦略的対応

シンガポールの命題は「自助」であり、公式な軍事同盟に自国の安全保障と生存を依存することではない。シンガポールのシステムには、高い教育を受け、コンピュータに詳しく、シンガポール軍の第三次（第三世代）変革に対応できる男性兵士²³と、シンガポール軍向けの洗練された兵器システムを構築できる軍事産業および軍事科学者が含まれている。しかしながら、21世紀の戦場の不確実性を踏まえ、軍隊は「シンガポール軍が地域で最も高度な技術を備えた軍隊であると考えられていても、それが必

²² メディアの報道によると、「シンガポールは再生水及び淡水化施設の処理能力を、2060年までにはシンガポールの水需要の80%を供給するまでに向上させる予定である。この目標は、シンガポールがマレーシアと結んだ第2回目の水供給協定が失効する前に策定された」（“Singapore to ramp up NEWater and desalination capacity,” *Channel News Asia*, 5 July 2011）。“Water deal expiry no impact on Singapore,” *Channel News Asia*, 4 March 2011も参照。

²³ シンガポール陸軍参謀長ラビンダー・シン少将は、デジタル技術に精通した若い徴兵の存在がなければ、シンガポール軍は第3世代の近代的かつハイテクな防衛組織に生まれ変わることはできなかつただろうと語っている（“A year of gearing up,” *Straits Times*, 3 December 2011）。

ずしも軍事作戦の成功を保証するものではない²⁴ という認識も有している。

人民行動党幹部の「厳正な真実」のメンタリティに後押しされて、シンガポールは現実政治（リアルポリティーク）の論理を支持しており、全ての大国が東アジアに参入し、（必ずしも対抗せずに）互いに均衡を取り合う形になることを歓迎している。シンガポールは、全ての大国と外交面及び安全保障面で良好な関係を求める綱渡りをしている。米国はシンガポール軍に土地の狭いシンガポールでは確保できない軍事訓練用の土地や施設を提供しており、シンガポール軍にとって重要なパートナーとなっている²⁵。

シンガポール軍は2011年11月28日から12月11日にかけて、合同実弾射撃演習「フォージング・セイバー 2011」を成功させた²⁶。「フォージング・セイバー」演習には、F-15SG、F-16C/D 戦闘機、アパッチ AH-64D やチヌーク CH-64D ヘリコプターなどの資産に加え、空軍及び陸軍の兵士が450名以上参加した。同演習では複数のセンサーと「狙撃（シューター）」プラットフォームに加え、統合直接攻撃弾（JDAM）やヘルファイアミサイルなどの最新鋭の弾薬を使用している。空軍のF-16SG機が日中及び夜間の作戦シナリオに沿って、レーザー JDAM を初めて動く標的に投下した²⁷。

²⁴ Major Timothy Ang, "Realism over Ritualism: Preparing for Uncertainty on the 21st Century Battlefield," *Pointer: Journal of the Singapore Armed Forces*, Vol. 37, No. 1, 2011, p. 7.

²⁵ 米国国務省によると、「シンガポールはアジア太平洋地域における米軍の駐留を一貫して強く支持している。1990年に、米国とシンガポールは1992年に、米国によるシンガポールのパヤレバー空軍基地とセンバワン波止場の施設の利用を許可する覚書（MOU）を締結した。同覚書の下、1992年に米空軍の後方支援部隊がシンガポールに創設され、米国の戦闘機が演習のため、定期的にシンガポールに配備されるようになり、米国の軍艦が多数シンガポールを訪問するようになった。同覚書は1999年に、米海軍の軍艦によるチャンギ海軍基地の係留施設の利用を許可する内容に変更する改訂を行い、2001年前半に改訂作業が完了した。2005年7月に、米国とシンガポールは防衛と安全保障を拡大する戦略的枠組み協定を締結した」（U.S. Department of State, Bureau of East Asian and Pacific Affairs, "U.S. Relations with Singapore," 2 December 2011, <http://www.state.gov/r/pa/ei/bgn/2798.htm>）。

²⁶ "SAF showcases integrated strike capabilities at Exercise Forging Sabre 2011," *MINDEF News*, 10 December 2011。「フォージング・セイバー」演習以外に、シンガポール軍は2011年10月21日から11月7日まで、米国オクラホマ州フォート・シル基地で、237名のシンガポール軍兵士が参加した高機動ロケット砲システム（HIMARS）の実弾砲撃演習も実施（コードネームは「Darling Warrior（愛しき戦士）」）。シンガポール軍と米軍が高機動ロケット砲システムとアパッチ AH-64D ヘリコプターを使用した二国間の対地空合同実弾砲撃演習を行った（"The SAF conducts live-firing exercise in the US," *MINDEF News*, 2 November 2011）。

²⁷ *Ibid.*

合同演習の一環として無人航空機(UAV)と軍事部隊による監視任務も行われた(図1参照)²⁸。

米海軍がシンガポールに新たに沿岸防衛用戦艦数隻を駐留させる可能性があることは、超大国米国と都市国家シンガポールの間にある緊密な戦略的関係を示す新たな証明である。これらの海上戦艦は沿岸海域で活動し、水際地雷に対処し、ディーゼル潜水艦や小型で高速の武装艦を駆逐することができる²⁹。おそらくシンガポールの海軍施設に駐留するこれら米国の海上戦艦は、南シナ海とマラッカ海峡に力を与えることだろう。このような配備は、オバマ政権が目指す米国の軍事的存在感を強める計画に一致するものである。

シンガポール軍は米国以外に、2011年にインド軍とも地上、海上、空中で合同訓練を行っている。これらにはシンガポール軍とインド軍の間で2011年1月2日から16日にかけてインドのデブラリで実施された二国間砲兵隊演習(コードネーム「Exercise Agni Warrior (アグニの戦士演習)」)³⁰、シンガポール軍兵士700名以上が参加して2011年3月1日から29日にかけてインド中部のバビーナ野外射撃場で行われた機甲師団演習(コードネーム「Exercise Bold Kurushetra (勇敢なクルシェトラ演習)」)³¹、2011年3月18日から25日にかけて行われたシンガポール空軍とインド空軍による毎年恒例の二国間共同海上軍事演習(シンガポールが主催)³²、シンガポール空軍とインド空軍が2011年10月14日から12月9日にかけてインドのカライクンダ空軍基地で実施した共同軍事訓練³³などが含まれる。

シンガポールは中国とも友好的な関係を維持している。2011年5月に、中国の梁光烈国防相がシンガポールにおいて、シンガポールのテオ・チーヒン国防相と会見した。中国側メディアによると、「梁国防相はシンガポール軍との友好関係と協力関係を非常に重視しており、シンガポール側との軍事訓練、隊員訓練、教育機関の交流にお

²⁸ “Achieving new heights at Exercise Forging Sabre 2011,” *MINDEF News*, 10 December 2011.

²⁹ “US navy may station ships in Singapore, Philippines,” *Reuters*, 16 December 2011.

³⁰ “Singapore and Indian armies conduct artillery exercise,” *MINDEF News*, 16 January 2011.

³¹ “Singapore and Indian armies conduct armor exercise,” *MINDEF News*, 29 March 2011.

³² “Singapore and Indian navies conduct maritime exercise,” *MINDEF News*, 24 March 2011.

³³ “Singapore and Indian air forces conduct joint military training,” *MINDEF News*, 7 December 2011.

いて相互訪問、政策対話、協力の強化に向けた取り組みを進めると語った。この協力関係は、非伝統的な安全保障問題において、また多国間の枠組み内でも強化していく³⁴。また、2009年にはシンガポール軍と中国人民解放軍による対テロ共同訓練演習を中国の桂林で、2010年にはシンガポールで実施している³⁵。

超大国の軍隊と友好的な関係を維持し、定期的に共同訓練を実施する以外に、シンガポール軍はオーストラリアにおける統合訓練演習を通じて、自身の作戦能力の向上に努めている。2011年の演習「ワラビー」はクイーンズランド州ショールウォーター湾訓練場で実施された。メディアの報道によれば、「実弾訓練には、シンガポール共和国空軍(RSAF)のAD-64D アパッチヘリコプターと、陸軍の主力戦車レオパルト、バイオニクスII歩兵戦闘車が参加した…今年度のワラビー演習は9月23日から11月26日にかけて、隊員約5,500名と、シンガポール軍の装甲車、ヘリコプター、無人航空機を含む400以上のアセットが参加して実施された³⁶。

4 二国間及び多国間協力——外交と安全保障

シンガポールは下記の、ASEAN地域フォーラム、東アジア首脳会議、拡大ASEAN国防相会議(ADMMプラス)から成るASEAN中心の地域安全保障の構造を、自国の現実主義的な安全保障政策を補完するものとして支持している。シンガポールでは、国際戦略研究所(IISS)が毎年、ASEAN地域各国の国防省、高官、学者を招いて意見交換を行うシャングリラ・ダイアログも主催している。

五か国防衛協定(FPDA)の40周年を記念して、シンガポールは2011年10月17日から11月4日まで、オーストラリア、マレーシア、ニュージーランド、シンガポール、英国の空軍、海軍、陸軍を集めて演習「ベルサーマ・リマ」を実施。同演習には約4,000名の人員、航空機68機、艦船18隻、潜水艦2隻、及びFPDA加盟国のさ

³⁴ “Chinese defense minister meets counterpart on Singapore visit,” *Xinhua*, 16 May 2011.

³⁵ “China, Singapore conduct joint counter-terrorism training exercise,” *Xinhua*, 19 November 2010.

³⁶ “Exercise Wallaby boosts SAF capabilities,” *Channel News Asia*, 20 November 2011.

さまざまな支援部隊が参加した³⁷。

シンガポール軍は ASEAN 加盟国とも二国間及び多国間協力を行っている。2011年7月に、シンガポール軍とインドネシア軍が共同主催した ASEAN 初の人道支援・災害救援演習もここに含まれる。ASEAN 加盟国の軍関係者 100 名以上が3日間の演習に参加した³⁸。2011年に、シンガポールはインドネシア、マレーシア、タイと共同でマラッカ海峡哨戒 (MSP) イニシアチブ、「アイズ・イン・ザ・スカイ」による空中哨戒、情報交換グループにも参加し、マラッカ海峡及びシンガポールの安全保障の強化を図った³⁹。2011年10月にタイが大規模な洪水に見舞われた際、シンガポール空軍は救援物資を積んだ C-130 機と KC-135 機を各1機派遣している⁴⁰。

2011年2月にニュージーランドのクライストチャーチを大地震が襲った際は、116名編成のシンガポール軍部隊がニュージーランド軍と地域の当局を支援して救助活動を行い、被災者に人道支援を提供した。また、55名編成の民間防衛局 (SCDF) 都市捜索救助チームとシンガポール軍の部隊も派遣し、シンガポール共和国空軍 (RSAD) の C-130 機2機と KC-135 軍用機1機でクライストチャーチの災害復旧活動を支援している⁴¹。

まとめ——ポスト・リー・クアンユー時代と「厳正な真実」

2012年に88歳を迎えるシンガポール建国の祖、リー・クアンユーは、もうすぐ政界を退くことになる。しかしながら、リーが体现した「厳正な真実」メンタリティが息子であるリー・シェンロン首相やその後の世代へと受け継がれるかどうかはわから

³⁷ “Singapore hosts FPDA Joint Exercise,” *MINDEF News*, 17 October 2011.

³⁸ “First ASEAN disaster relief exercise ends,” *Straits Times*, 15 July 2011. See also “Better disaster relief within ASEAN,” *Pioneer*, September 2011, p. 5, “ASEAN militaries conclude humanitarian assistance and disaster relief exercise,” *MINDEF News*, 14 July 2011.

³⁹ “SAF participates in Hari Nusantara to mark Malacca Strait Patrols Cooperation,” *MINDEF News*, 13 December 2011.

⁴⁰ “Ministry of Foreign Affairs statement: Singapore’s humanitarian relief assistance to Thailand,” *MINDEF News*, 21 October 2011.

⁴¹ “SAF assists NZDF in Christchurch,” *MINDEF News*, 23 February 2011, “150 SAF personnel honored for contributions in Christchurch,” *MINDEF News*, 8 April 2011.

ない。リーが政界を退いても、「厳正な真実」の多くはシンガポールに留まるだろう。第一に、シンガポールとその国民の価値観や政治観は以前より多様化してきている。2011年の総選挙で、与党の人民行動党(PAP)が60%しか得票率を得られなかった事態が、このことを明確に示している。与党がその後、国民の支持の低下を食い止めることに成功したようには見えない。第二に、シンガポールはすでに先進国となり、人口の高齢化が進んでいる。そのため、移民を増やさない限りは、高い経済成長を維持することは困難である。だが、そのような戦略をとれば、すでに世界で最も人口密度の高い国のひとつに住むシンガポール国民の反感を買う上に、道路、電車、住宅、病院などの公共インフラがさらに圧迫されることになるだろう。

2011年に政策研究所(IPS)が実施した調査によると、合計特殊出生率(TFR)は女性1人当たり1.24であり、移民がゼロであれば、シンガポールの人口は2011年の520万人から2050年には303万人まで減少するだろう。このシナリオが現実のものとなれば、シンガポールは経済成長を維持できないし、シンガポール軍に多額の国防予算を注ぐこともできなくなるだろう。政策研究所の調査によると、毎年3万人の移民を新たに受け入れれば、2050年の人口は489万人になると試算されている。また、毎年6万人の移民を新たに受け入れれば、2050年の人口は676万人になると予測されている⁴²。2011年の総選挙後(移民が重要なテーマとなった)、リー・クアンユーは「現在、シンガポールは移民を年間2万人しか“消化”できない」と嘆いた⁴³。

おそらく、シンガポールで長期的には次のシナリオがもたらされ、安全保障の展望や国防に影響を与える可能性がある。シンガポールで民主化が進み(国会の議員数に占める野党議員の割合が増加し)、人口の高齢化が急速に進行すれば、より手厚い社会的支援と福祉を求める有権者の声が高まり、多額の防衛予算の削減を求める人が増えると考えられる。だが、シンガポール国民にはもはや大量移民の流入を受け入れる態勢がない。よってシンガポールは長期的に、経済成長の鈍化、労働人口の高齢化、シンガポール軍の徴兵数の減少を受け入れるしかない。こうした結果が少しでも想定できるのであれば、シンガポールは隣接する国々との友好を深め、ASEANの

⁴² “Low fertility rate, no immigration will lead to Singapore’s population decline,” *Channel News Asia*, 7 September 2011.

⁴³ “Lack of immigrants will ‘hurt’ Singaporeans in future,” *Straits Times*, 15 September 2011.

制度化を政治、経済、安全保障の共同体として活用し、全ての超大国と今後も良好な関係を維持するべく努めねばならない。しかし、中国がさらに台頭し、超大国米国が主張を強めることがあれば、今後10年か20年の間に米中関係が大幅に悪化し、シンガポールが板挟みになることも考えられる。そうなれば、シンガポールが対立する超大国2国の間で、戦略的な均衡を保つことがさらに困難になるだろう。

図1 演習「フォーミング・セイバー 2011」(MINDEF News, 10 December 2011)



合同攻撃

今年度の「フォーミング・セイバー」演習において、シンガポール軍は対空攻撃及び合同攻撃作戦を通じて敵国の空軍及び陸軍と交戦した。

1. 追跡・破壊
 センサーが敵軍を追跡し、指令本部 (CP) に最新の情報を送る。CP が状況を判断し、F-15SG、F-16C/D 戦闘機で編成された対空戦闘編隊を稼働させる。制空権を掌握後、CP は多機能型戦闘機 F-15SG へ、敵軍本部破壊のタスクを指令する。

2. 発見・対応
 同時に、無人航空機 (UAV) やコマンド部隊などがセンサーによって、敵の機甲部隊や砲兵隊を発見し、その情報を CP へ伝達する。シンガポール共和国空軍および陸軍の隊員で構成された CP は、受け取った情報を照合し、正確な情報に基づいて攻撃を行うタイミングとエリア、そして標的に最も効果的な資産の種類を決定する。F-15SG、F-16C/D、アパッチ AH-64D が稼働した。

3. 阻止・破壊
 敵国機甲部隊の縦隊が指定「交戦区域」に進入したら、F-15SG、F-16C/D、アパッチ AH-64D がレーザー統合直接攻撃弾 (LJDAM)、レーザー誘導爆弾、ヘルファイアミサイルなどの最新鋭の兵器を使用して標的を破壊する。